

5 (3) 問いを見いだし、自己の生き方を問う

**こんな実践**

自分の身近な人にインタビューをし、その人の考え方にふれることで生徒自身が問いを見いだした子供たち。学んだことの振り返りからこれからの自分の将来について考えていった事例。

実践学校 M中学校

実践学年 3学年

実施時期 7月

単元名 「自分の将来を考えよう」

(1) 問いを見いだす

○ 自分の将来の生き方を考える単元の立ち上げにおいて、<今の職業で働くことになったきっかけについてインタビューをする>というビデオ映像を視聴しました。視聴後に生徒は、「この人の今の職業は、昔の経験がきっかけとなっているんだな」「自分は将来、どんな道を歩んでいくのかな」などと口々に語りました。教師は、生徒一人一人の言葉を受けて、「みんなだったら、どんな人にとってインタビューをしてみたい？」と投げかけました。聞きたい人を決められないでいるAさんに、教師は、「まずは自分に身近な人から聞いてみたらどうかな」と提案したところ、同じ山村留学出身のNさんから話を聞くことを自分自身で決め出していきました。



○ 「その人からどんなことを聞きたい？」という教師からの投げかけに、Aさんは、「(Nさんにとって)山村留学での経験が、今どのように生きていると思いますか？」と学習カードに記入しました。その内容は、Nさんの山村留学での生活経験とAさん自身の今の山村留学での生活とが結び付いたものであると考えられます。この学習カードに書かれた内容からその意味の深さを理解した教師は、Aさんが自分の事として見いだされた「問い」として捉えました。

山村留学出身のNさんが、今どのように生きていると思いますか？  
**Aさんの学習カード** 思いますが？



**ここがポイント！**

- ・自分の将来について、聞きたい人を自分で決め出せるように生徒の意識を把握したり、どんなことを聞きたいのか生徒自身に考えさせたりすることによって、生徒一人一人が自ら問いを見いだしていくことにつながります。

## (2) 自己の生き方へ

○ Aさんは自分の問いに対し、Nさんから話を聞いたり質問したりしました。

Aさん：なぜ今の職業（農業試験場）を選んだのですか？

Nさん：農業に貢献し、いろいろな人とふれ合いたいからです。そうなったのは、この山村留学での農業体験がきっかけです。

Aさん：山村留学をした経験が、今どのように生きていますか？

Nさん：自分で考えて自分で行動することや次にやることをみんなに提案していくことが、今に生きています。

初めのうちは、笑顔で頷きながら話を聞いているAさんでしたが、Nさんの今の職業を選んだ理由や、山村留学での経験がどのように生きていくかの話になると、メモを取りながら真剣な表情で話を聞く姿へと変わっていきました。Nさんが農業に貢献できるように一生懸命に働いている姿や、自分で考えて行動することが今に生きていくと聞いたことで、「自分もNさんみたいになりたい」という憧れを抱く存在になっていきました。

○ インタビューをしたことが生徒にとってどんな学びとなったのか自覚できるように、教師は振り返りの場を設けました。Nさんの思いを新たに発見したり、真剣な取組や生き様に共感したりしたAさんは、「これからは、人に聞かずに自分で考えて行動したいです。全体を見ながら行動することも心がけたいです」と、振り返っていました。Aさんは、自分にとって山村留学の経験を意味のあるものにするにはどうしたらよいかという、一層価値のある課題をもつことができました。

**ここがポイント！**

- ・対象との出会いから生徒自身の中に問いが見いだされ、学んだことを自覚できるような振り返りから、どのような見通しをもって追究するかという課題を設定することが、今後の自分の生き方を考えていく姿につながります。

**まとめ**

- ・単元の立ち上げにおける生徒の問いを大切にしたり、振り返りの場を位置付け課題を設定したりして、生徒の思いを捉えた教師の支援が大切です。
- ・自分を取りまく実社会や実生活に目を向けた時、生徒自身が自分の事として問いを見だし、自分の問いに対して生徒が対象と直接関わり課題意識を高め、自分の将来の生き方について考えることができます。